

～2013年に向けて～
「上智大学の果たすべき使命を考える」
記事詳細 4・5 面

第350号 2009年(平成21年)12月21日発行

第5回

ソフィア・ルネッサンス連続講演会を開催

緒方貞子名誉教授が学生にメッセージ

十二月二十六日、第五回ソフィア・ルネッサンス連続講演会が二号館十七階国際会議場において開催され、独立行政法人国際協力機構(JICA)理事長の緒方貞子氏(本学名誉教授)を迎えた。「グローバル化の世界、私たちへの挑戦」と題した講演会には、学生や卒業生など約二百六十人が集まり、満席の会場の中、来場者は緒方氏の話に真剣に聞き入った。

はじめに緒方氏は、世界で急速に広がっているグローバル化について、「冷戦の終了が一つの契機となった」と話し、その後、歴史上かつてないようなスピードと規模で、国境を越えて、人・モノ・金・情報が動き出したことを、事例を挙げて説明した。そして「グローバル化には光と影があることを、現代を生き

ている私たちが認識する必要がある」と語った。次に、一九九一年から

国連難民高等弁務官を務め、多くの紛争・難民の問題を解決してきた経験と、国家・行政の役割を強化するという二つのアプローチについて説明した。

また、海外における日本政府の取り組みや企業の社会貢献活動について

「自分の確信に基づいて行動を」とメッセージを送る緒方氏



紹介し、「私たちは、生きている生活は国際的な土壌の上で立っていること、周辺の国、遠い国に依存している。グローバル化の世界においては、最後に、「日本の若者は内向きだといわれるが、上智大学の学生はそうではないと思ってい

る。留学やボランティアは内向きだといわれるが、上智大学の学生はそうではないと思ってい

る。留学やボランティアは内向きだといわれるが、上智大学の学生はそうではないと思ってい



オールソフィアのクリスマス(記事8面)で飾られたプレゼビオ(キリスト生誕の場面を再現した飾り)